

科目名	ビジネス法特講	担当者	ナカムラ 中村 リョウ 良	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>経済法という法典は存在しません。また経済法をどのように考えるかについては、諸説あります。ビジネス法特講においては、「市場支配」に対する国家による規制法と定義し、私的独占の禁止および公正取引確保に関する法律（以下、独占禁止法とします）をその中心と考えます。経済法を理解することなく事業活動を進めることは、多くのリスクが予想されます。そこでリスクを回避するためにも、具体的な事例を通じて経済法（特に独占禁止法）を理解することが重要です。レポート1では、経済法とは何か、独占禁止法との関係、独占禁止法の目的及びその中心的な概念である私的独占・不当な取引制限等の主要概念を中心に勉強を進めて頂きます。レポート2では、企業結合規制、不公正な取引方法、刑事罰・損害賠償・課徴金等を中心に勉強して頂きます。勉強方法としては、独占禁止法に関する資料の収集、整理、要約、論点整理、検証、レポート作成といったプロセスを通じて、経済法に対する基本的な知識を身につけるとともに、予防・事後対応等の問題回避・解決能力を取得してもらうことを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 ビジネス場面において、ビジネスの憲法とも言える独占禁止政策を理解し、違反行為を予防し、また被害にあわないよう損害を最小にする回避行動、損害賠償請求等ができるような知識・技能を修得する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】 1 独占禁止法の意義・基礎概念をしっかりと理解する。(知識・想起) 2 独占禁止法上の問題点を見いだせる。(知識・想起) 3 問題回避のための必要な情報を調べられる。(知識・解釈) 4 必要な情報を事例に適用できる (知識・解釈・技能)。5 バランスの取れた結果を導き出せる。(態度・反応)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングに該当しない。</p> <p>【学修方略 (LS)】 1 独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材①で独占禁止法について概観し、次に教材②を熟読して、独占禁止法の意義、違法行為類型（要件）、執行手続、エンフォースメント等について勉強します。“自習研究”【20時間】 2 1で身につけた知識を立体化するために教材②の文中で紹介されている判例・審決について教材③で確認して、レポートを作成して下さい。“レポート作成”【10時間】 3 レポート課題への質問、勉強の仕方、資料の収集方法等について、担当教員とメールでディスカッションする。“ディスカッション” (nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。【15時間】</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1 課題(1)：初稿は令和3年5月30日、最終稿の提出期限は学事暦に従う。 課題(2)：初稿は令和3年8月15日、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>後期：基本教材2 課題(1)：初稿は令和3年10月10日、最終稿の提出期限は学事暦に従う。 課題(2)：初稿は令和3年12月10日、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	①初稿の締切り、②内容（課題の正確な理解）、③構成（論理性）、④情報収集（必要な情報を収集しているか）、⑤文章表現力
	観察記録	30%	レポート作成過程における質問のやりとり（質問、および添削に対する対応等）。
履修者への要望	<p>1 基本教科書について不明な点、資料の調べ方等電子メールを活用し、どのような質問でも結構ですので、積極的に質問して下さい。 2 新聞等で特に独占禁止法に関連する報道があれば是非調べてみて下さい。 3 履修登録及びレポート提出時には必ず下記アドレスあてにメールをお願い致します。 nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>①公正取引委員会 HP (http://www.jftc.go.jp/) 「動画で分かる公正取引委員会」 ②著者名： 泉水文雄、土佐和生、宮井雅明、林 秀弥 著者名： 教材名：『経済法（第2版）』（有斐閣 2015年） 教材名： ISBN 978-4-641-17928-8 定価 2,900 円+税 ③著者名 舟田 正之（編集）、金井 貴嗣（編集）、泉水 文雄（編集） 教材名 『経済法判例・審決百選2版（別冊ジュリスト）』（有斐閣 2017年） ISBN-13: 978-4641115347 定価 3024 円（税込み）</p> <p>教材①は独占私法を管轄する「公正取引委員会」が作成している「動画」です。平易な表現で説明していますので、法律を初めて勉強する方にもよい教材です。教材②は法学部さらには法科大学院の教科書として使用に耐える教科書です。少し難解かもしれませんが挑戦してみてください。教材③は、主として独占禁止法を理解するうえで重要な判例・審決について解説しています。</p>
参考図書	<p>著者名 根岸 哲（編） 書 名 『注釈独占禁止法』（有斐閣 2009年）ISBN978-4-641-01836-5 定価 7,000 円+税 著者名 武田晴人 書 名 『談合の経済学』（集英社文庫 2006年）ISBN4-08-747091-1 定価 533 円+税</p>
履修上のポイント	<p>独占禁止法の法律要件を抽象的に理解するだけでは、十分に理解したことにはなりません。典型的な事例を分析・検討することがとても重要です。まず、教材①で独占禁止法について概観し、次に教材②を通読し、独占禁止法の要件について勉強します。そして知識を立体化するために教材②の文中で紹介されている判例・審決について教材③で確認してください。不明な点は、担当教員にメール等で質問して下さい。</p>
レポート課題 1	<p>「独占禁止法の目的について論じなさい」 留意点： 学説、審決・判例を必ず検証し、自らの見解を示してください。</p>
レポート課題 2	<p>「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」 留意点： ①談合とは何か。②何故談合が行われるのか。③談合は独占禁止法違反となるか。学説、審決・判例を丁寧に検討し自らの見解を示してください。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>①公正取引委員会 HP (http://www.jftc.go.jp/) 「動画で分かる公正取引委員会」 ②著者名： 泉水文雄、土佐和生、宮井雅明、林 秀弥 著者名： 教材名：『経済法（第2版）』（有斐閣 2015年） 教材名： ISBN 978-4-641-17928-8 定価 2,900 円+税 ③著者名 舟田 正之（編集）、金井 貴嗣（編集）、泉水 文雄（編集） 教材名 『経済法判例・審決百選2版（別冊ジュリスト）』（有斐閣 2017年） ISBN-13: 978-4641115347 定価 3024 円（税込み）</p> <p>教材①は独占私法を管轄する「公正取引委員会」が作成している「動画」です。平易な表現で説明していますので、法律を初めて勉強する方にもよい教材です。教材②は法学部さらには法科大学院の教科書として使用に耐える教科書です。少し難解かもしれませんが挑戦してみてください。教材③は、主として独占禁止法を理解するうえで重要な判例・審決について解説しています。</p>
参考図書	<p>著者名 根岸 哲（編） 書 名 『注釈独占禁止法』（有斐閣 2009年）ISBN978-4-641-01836-5 定価 7,000 円+税 著者名 田辺 治（編） 書 名 『企業結合ガイドライン』（商事法務 2014年）ISBN-13:978-4785721527 定価 3,400 円+税 著者名 丹宗暁信（編） 書 名 『独占禁止手続法』（有斐閣 2002年）ISBN-13:978-4641143210 定価 4,500 円+税</p>
履修上のポイント	<p>教材②③を精読するとともに、インターネット等を通じて資料を検索・検討してください。</p>
レポート課題 1	<p>「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」 留意点： 企業結合の経営学的、経済学的なメリットおよびデメリットを検討し、そのうえで、独占禁止法で企業結合を禁止する理由を論じて下さい。</p>
レポート課題 2	<p>「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」 留意点： 損害賠償請求訴訟の独占禁止法の執行方法における位置づけと法律要件について学説を整理してください。そのうえで、これまでの独占禁止法に関連する損害賠償請求事件を検討し、その問題点を指摘してください。</p>

基本教材 1

<p>第 1 回</p>	<p>①授業テーマ 経済法を学修する意義 学修方法 経済法とは何か 経済法と独占禁止法との関係とは</p> <p>②学修準備 (10 分) 担当教員にメールを送り打合せ日時を調整する。</p> <p>③学修 (360 分) nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp にメールし、Zoom 等のオンラインでの打ち合わせ日時を決める (オンラインでの打ち合わせが困難な場合はメールにその旨記載する)。 資料の収集方法、条文の読み方、審決・判例の調べ方及びまとめ方を学修する。 経済法を勉強する意義について専門的な知識を論理的に理解する。 経済法とは何かを経済法学説史を通じて理解する。 学修ノートを作成する (作成後利用するためにもデータで作成することを推奨)。</p>
<p>第 2 回</p>	<p>①授業テーマ 独占禁止法の概要 1</p> <p>②準備 (10 分) 最新の六法 (独占禁止法に改正があったので最新のものを推奨) および基本書を用意する。</p> <p>③学修 (360 分) 公正取引委員会の上記 URL の独占禁止法の概要 (教材①) について解説動画を視聴する。 この時に六法 (小型のものでよい) を手元に用意し、出来る限り条文を確認する。 その後、教材②を精読する (第 1 回で詳しく説明する)。レベルの高い基本書なので分からないところは飛ばして読み進める。 教材②で引用された条文は六法で、審決・判例は教材③で内容を確認する。 学修して分からなかった用語等について法律学辞典等を用いて調べる。 自分でしらべても不明な場合は、担当教員にメールする (nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。</p>
<p>第 3 回</p>	<p>①授業テーマ 独占禁止法総論 1</p> <p>②準備 (30 分) ミクロ経済学 (又は価格理論) の教科書等で「完全競争」について調べておく。 教材②③を用意する。</p> <p>③学修 (360 分) 独占禁止法の基礎にある経済理論について専門的な知識を理解する。 授業で取り扱った理論について自分の言葉で説明できるようにしておく。 自分でしらべても不明な場合は、担当教員にメールする (nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。</p>
<p>第 4 回</p>	<p>①授業テーマ 独占禁止法総論 2 (「事業者」「一定の取引分野」「競争の実質的制限」「公共の利益」「公正競争阻害」)</p> <p>②準備 (30 分) 教材②③と六法を用意する。 前回学修した経済理論について、それぞれのメリット・デメリットを確認しておく。</p> <p>③学修 (360 分) 独占禁止法の基礎概念を審決・判例を参照しながら理解する (E 1, H 1, I 1)。 学修した概念を審決・判例を引用しながら自分の言葉で説明できるようになる。 自分でしらべても不明な場合は、担当教員にメールする (nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp)。</p>
<p>第 5 回</p>	<p>①授業テーマ 独占禁止法の概要 (私的独占)</p> <p>②準備 (60 分) 前回学修した「基礎概念」を審決・判例を引用しながら自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>③学修 (360 分) 私的独占についてその要件・効果、執行手続きについて教科書②を精読し理解する。 教科書②で引用されている学説、審決・判例について教科書③で確認する。 ここで取り扱った論点、学説、審決・判例を自分の言葉で説明できるようになる (E 1, H 1, I 1)。 不明な点があれば担当教員にメールする。</p>
<p>第 6 回</p>	<p>①授業テーマ 独占禁止法の概要 (不当な取引制限)</p> <p>②準備 (120 分) 不当な取引制限に関する経済理論を復習しておく。</p> <p>③学修 (360 分) 不当な取引制限の構成要件・効果、立証責任、執行手続等について教科書②の該当箇所を精読する。 教科書②で引用されている審決・判例を教科書③で確認し、そこで引用されている学説、審決・判例を収集し検討する。 検討した論点、学説、審決・判例を自分の言葉で説明できるようにする。</p>

第7回	<p>①学修テーマ レポート1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成1（経済理論・学説）</p> <p>②準備（10分） 教科書②③、これまで作成したノートを用意する。</p> <p>③学修（360分） 談合に関連する経済理論・学説を収集する。 収集した経済理論・学説を検討し、自分の言葉で要約する。</p>
第8回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成2（審決・判例）</p> <p>②準備（60分） 前回収集、要約した経済理論・学説を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） 談合に関連する審決・判例を収集する。 収集した学説、審決・判例を検討し、論点、事実の概要、理由を要約し整理する。 レポートの構成を考える。</p>
第9回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成（初稿作成・提出）</p> <p>②準備（10分） これまでに作成した資料、六法、教科書②③等を用意する。</p> <p>③学修（360分） 前回作成した構成に従って、資料収集。整理、要約、検討した資料を使用しレポートを作成する。 作成したレポートを初稿として担当教員に提出する。</p>
第10回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法の目的について論じなさい」の作成（最終稿の作成）</p> <p>②準備（120分） 初稿に添えられたコメントを理解し適切な修正を加える。</p> <p>③学修 レポート課題1お提出するための最終チェックをする（特に脚注）。</p> <p>④レポート提出後 これまでの学修方法（学修計画を含む）について検討し改善する。</p>
第11回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成1（談合の歴史）</p> <p>②準備（60分） 近所の図書館等で参考図書（武田晴人著『談合の経済学』）を借りる。</p> <p>③学修（360分） 上記参考図書を精読し、談合の歴史・その背景を理解しておく。 その内容を整理し要約する。</p>
第12回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成2（経済理論、学説）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） 談合に関連する資料（経済理論、学説）を収集する。 収集した学説を整理し要約する。</p>
第13回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成3（審決、判例）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） 談合に関連する資料（審決・判例）を収集する。 収集した審決・判例を検討し、論点、事実の概要、理由を要約し整理する。 これまでの学説の整理と合わせてレポートの構成を考える。</p>
第14回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成4（初稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） レポートの初稿を作成し、提出する。</p>
第15回	<p>①学修テーマ レポート課題1「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の作成5（最終稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） レポート課題2「談合は独占禁止法に違反するか論じなさい」の最終稿を作成する。 特にレポートの脚注を確認する。</p> <p>④レポート提出後 これまでの学修方法（学修計画を含む）の反省点および改善方法を検討する。</p>

基本教材 2

<p>第 1 回</p>	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 1 ②準備 (60 分) 後期学修について打合せの日時を決める。 前期の同様担当教員にメール (nakamura.ryo@nihon-u.ac.jp) で日時を調整する。 前期で学修した経済理論を確認する ③学修 (360 分) 公正競争阻害性の概要について教科書②で学修する。</p>
<p>第 2 回</p>	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 2 ②準備 前回は学修した内容を確認する (60 分) ③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
<p>第 3 回</p>	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 3 ②準備 前回は学修した内容を確認する (60 分) ③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
<p>第 4 回</p>	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 4 ②準備 前回は学修した内容を確認する (60 分) ③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
<p>第 5 回</p>	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 5 ②準備 前回は学修した内容を確認する (60 分) ③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
<p>第 6 回</p>	<p>①学修テーマ 公正競争阻害について 6 ②準備 前回は学修した内容を確認する (60 分) ③学修 (360 分) 不公正な取引方法の概要について教科書②で学修する。</p>
<p>第 7 回</p>	<p>①授業テーマ レポート課題 1 「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成 1 (経済理論、学説) ②準備 (60 分) 前期で学修した企業結合規制に関連する経済理論を自分の言葉で説明できるようにする。 ③学修 (360 分) 企業結合規制についての基礎知識 (経済理論、学説等) について教科書②を精読し理解する。 企業結合規制の基礎となる論点、経済理論、学説を整理し、要約する。 不明な点があれば担当教員にメールする。</p>
<p>第 8 回</p>	<p>①授業テーマ レポート課題 1 「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成 2 (審決・判例) ②準備 (60 分) 前回は学修した学説を自分の言葉で説明できるようにする。 ③学修 (360 分) 企業結合規制に関連する審決・判例を収集する。 事前相談事例を収集する。 収集した審決、判例の事実の概要、論点、理由等を要約する。 レポート課題 1 「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の構成を考える。 不明な点があれば担当教員にメールする。</p>

第 9 回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成4（初稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） レポートの初稿を作成し、提出する。</p>
第 10 回	<p>①学修テーマ レポート課題1「独占禁止法上禁止される企業結合を論じなさい」の作成5（最終稿の作成）</p> <p>②準備（120分） 初稿を修正するのに必要な資料を収集する。</p> <p>③学修（360分） レポート課題1お提出するための最終チェックをする（特に脚注）。</p> <p>④レポート提出後 これまでの学修方法（学修計画を含む）について検討し改善する。</p>
第 11 回	<p>①学修テーマ 独占禁止法執行手続</p> <p>②準備（60分）</p> <p>③学修（360分） 独占禁止法における執行手続きについて教科書②で基礎理論を身につける。 関連する条文、審決・判例を要約する。</p>
第 12 回	<p>①授業テーマ レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成1（経済理論、学説）</p> <p>②準備（60分） 前期で学修した損害賠償請求制度に関連する経済理論を自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>③学修（360分） 損害賠償請求制度の基礎知識（経済理論、学説等）について教科書②を精読し理解する。 損害賠償請求制度の基礎となる論点、経済理論、学説を整理し、要約する。 不明な点があれば担当教員にメールする。</p>
第 13 回	<p>①授業テーマ レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成2（判例・違約金条項）</p> <p>②準備（60分） 前回学修した学説を自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>③学修（360分） 損害賠償請求制度に関連する判例を収集する。 違約金条項の例を収集する。 収集した判例の事実の概要、論点、理由等を要約する。 レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の構成を考える。不明な点があれば担当教員にメールする。</p>
第 14 回	<p>①学修テーマ レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成4（初稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） レポートの初稿を作成し、提出する。</p>
第 15 回	<p>①学修テーマ レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の作成5（最終稿の作成と提出）</p> <p>②準備（60分） 教科書②③、六法を用意する。これまでの学修を確認しておく。</p> <p>③学修（360分） レポート課題2「独占禁止法にける損害賠償請求訴訟制度を検討し、その問題点を指摘しなさい」の最終稿を作成する。特にレポートの脚注を確認する。</p> <p>④レポート提出後 これまでの学修方法（学修計画を含む）の反省点および改善方法を検討する。</p>